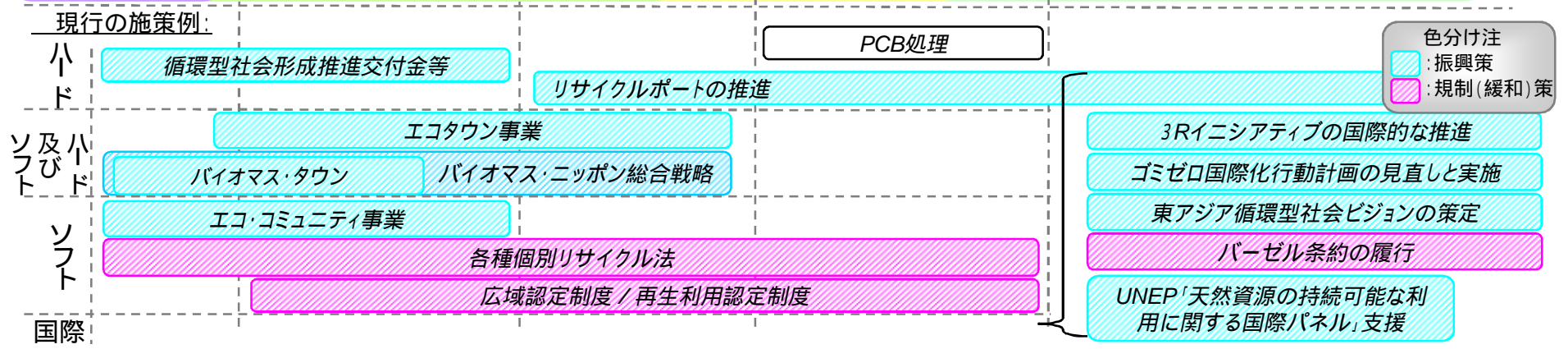


# 地域循環圏について

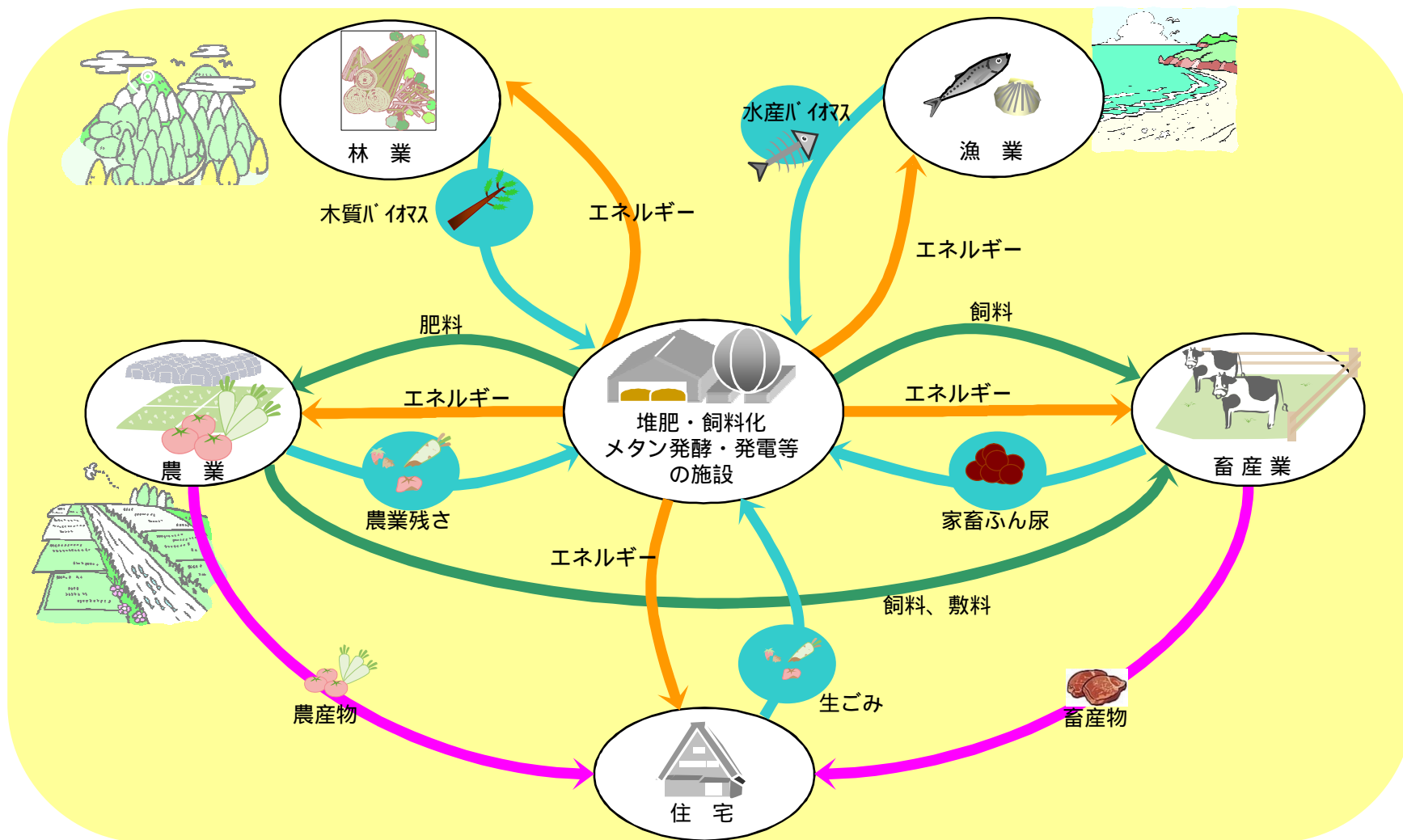
- 循環資源の性質ごとに、地域の範囲別に分類したイメージ。
- 経済合理性や技術的可能性等の状況によって循環の範囲は異なるが、以下のように大まかに分類することが可能ではないか。



# 農山漁村

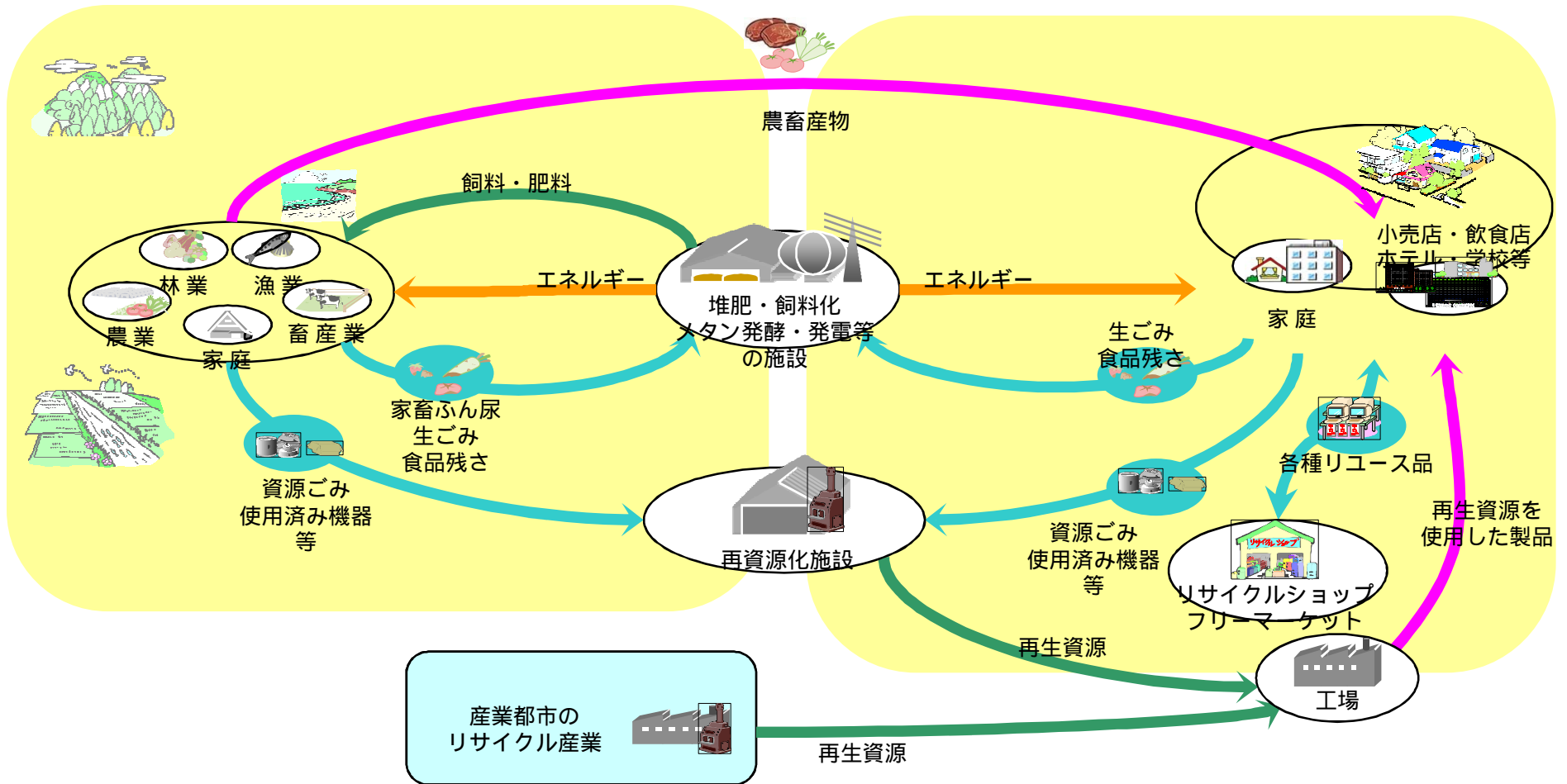
地域の規模・特性別の循環型社会のイメージ例は以下の通り。

- 農山漁村で発生する循環資源は、間伐材、家畜糞尿、貝殻等や一般廃棄物のうち分別回収される生ごみ等である。
- これらはバイオマス資源としてその他の循環資源とともにメタン化によるエネルギー回収、肥飼料、その他土壌改良材等としての利用などが行われる。
- この肥料を利用して生産された農産物が地域内で消費される(地産地消)といった循環が形成される。



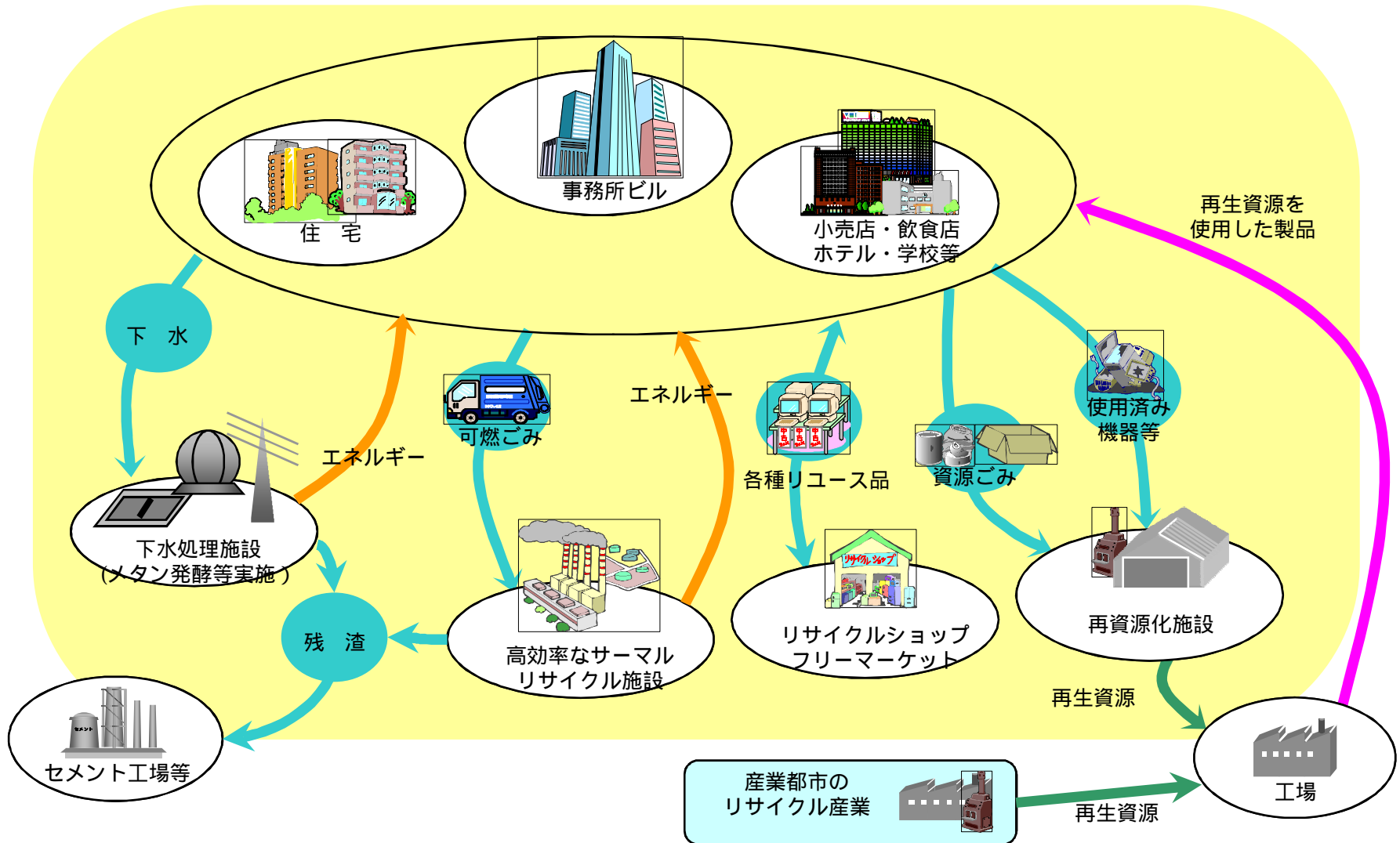
## 中小都市

- 都市と農村が近接している場合、都市部から一定量が安定的に排出されるバイオマス系廃棄物等については、農村部に運搬され肥飼料等として利用される。
- 生産された農畜産物は都市部において消費される。
- 工業系廃棄物については、近隣に再資源化施設がない場合、物流網を通じて比較的広域に流通し、循環資源として再利用される。



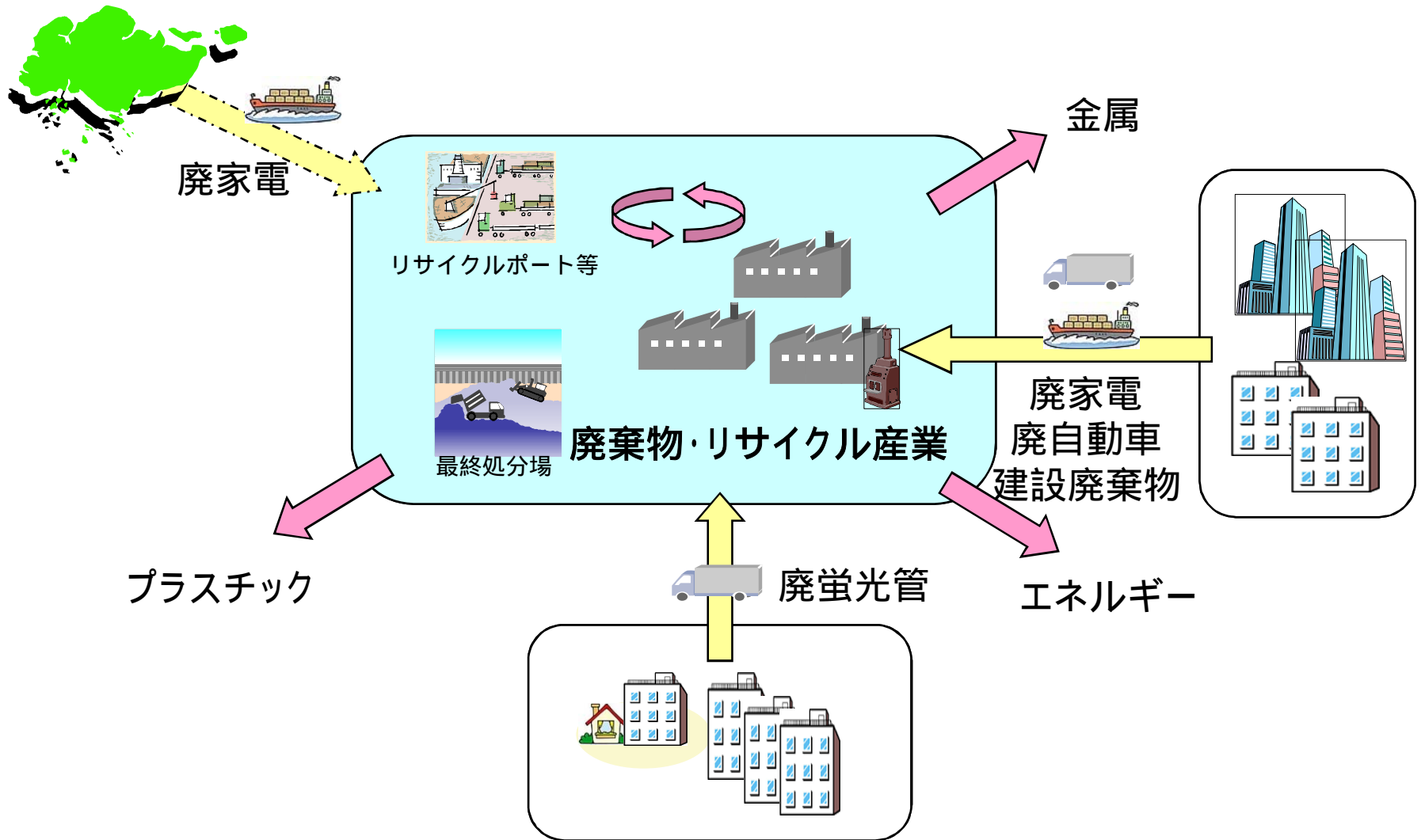
# 大都市

- 廃棄物の発生密度が高いため、大量の廃棄物が恒常的に排出・収集される。資源回収、焼却施設における減量化及びその際の熱回収等が大規模かつ効率的に行われる。
- 下水汚泥等については、メタン回収などが行われた後、残渣については大量かつ安定的に供給される資源としてセメント産業等において工業的利用がなされる。



## 産業都市（広域収集・高効率処理）

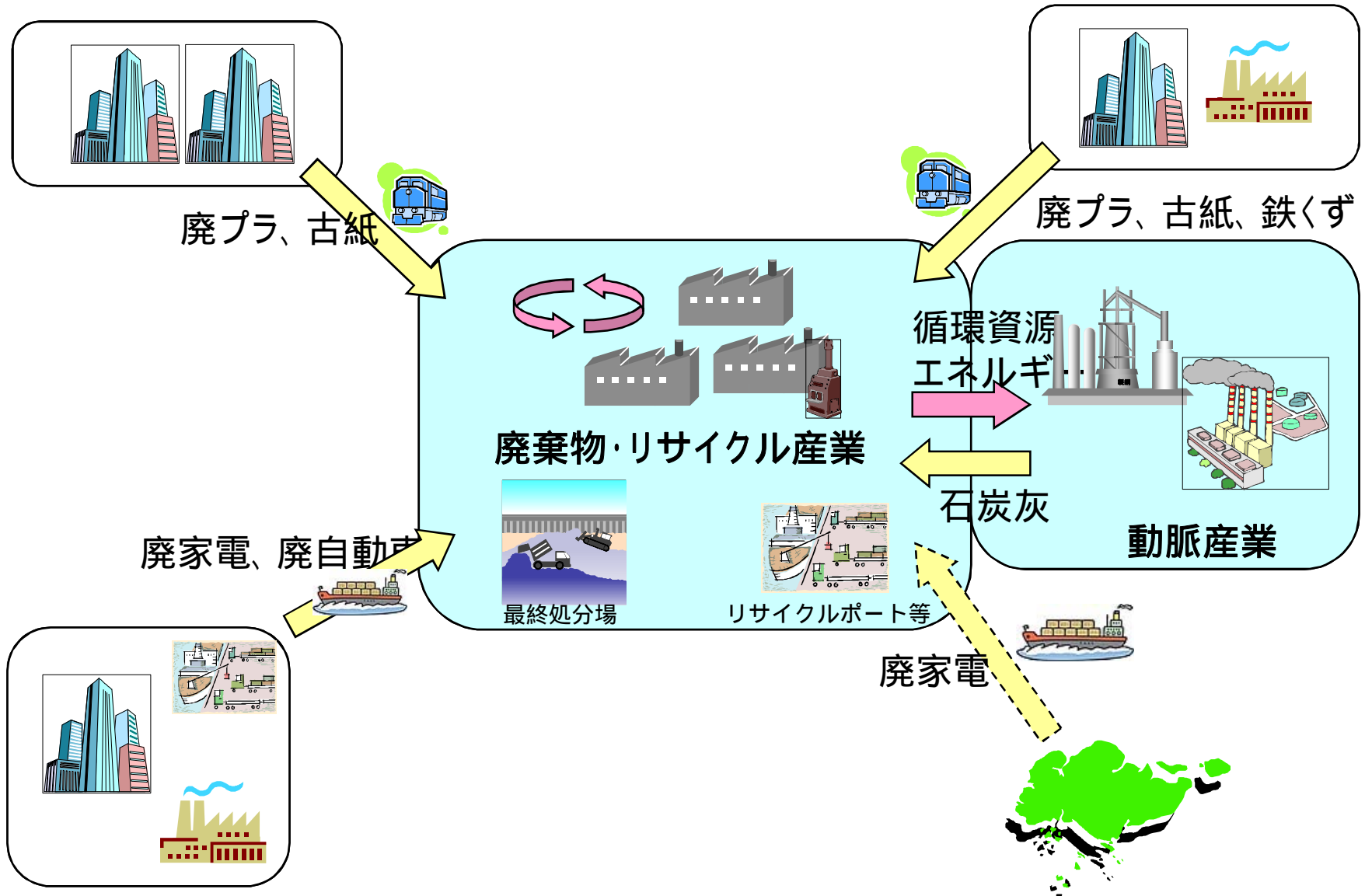
- リサイクル産業等が集積し、陸運・海運も含め広域的に循環資源を収集する。
- 産業都市内部での循環が形成されゼロエミッションが達成される。





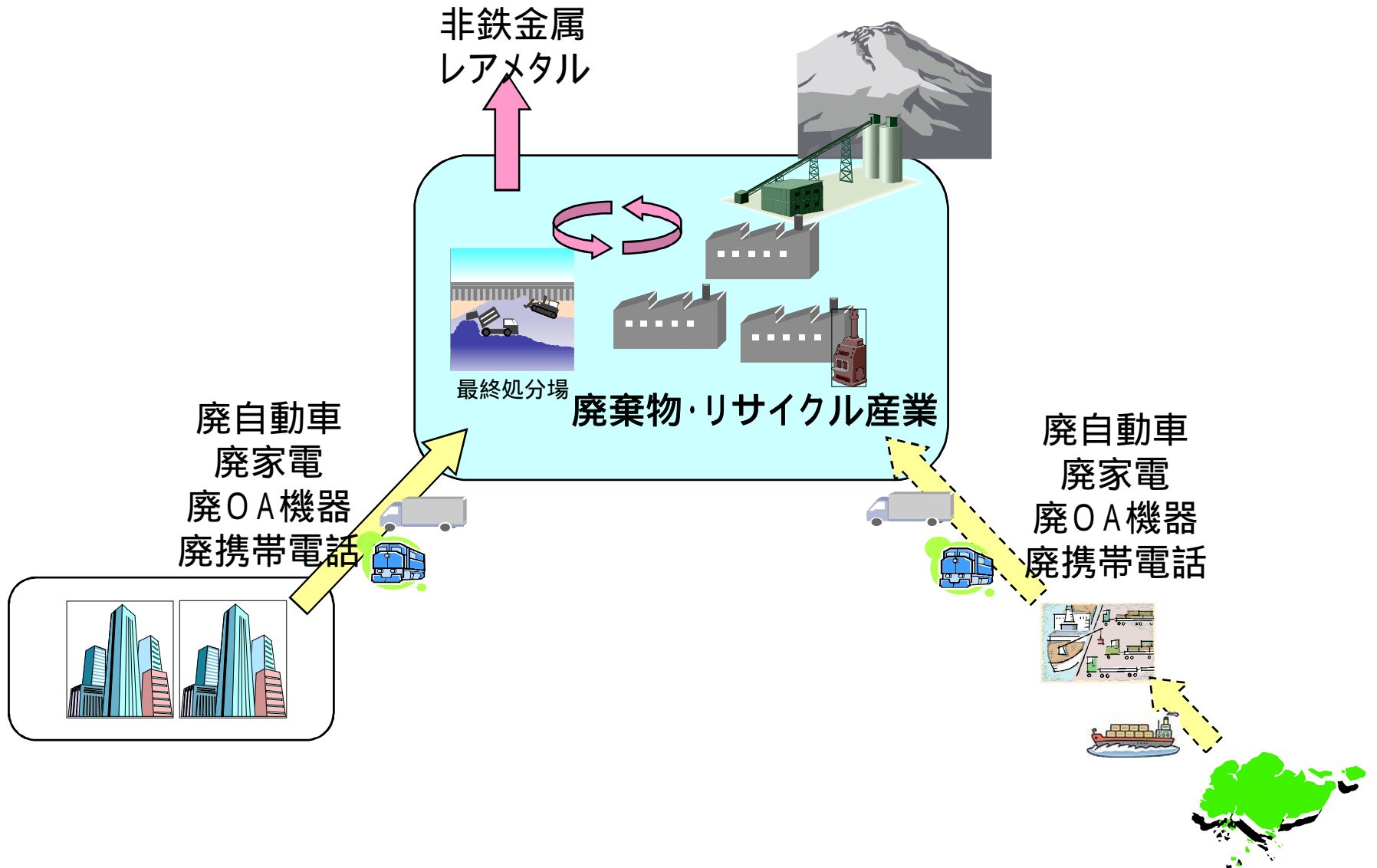
# 産業都市（動脈静脈連携）

- 動脈・静脈の企業間連携により副産物の効率的な利用がなされる。
- リサイクル産業等の集積を図ることで、陸運・海運も含め広域的に循環資源を収集し、規模の経済性を発揮して効率的に循環資源の利用を進める。



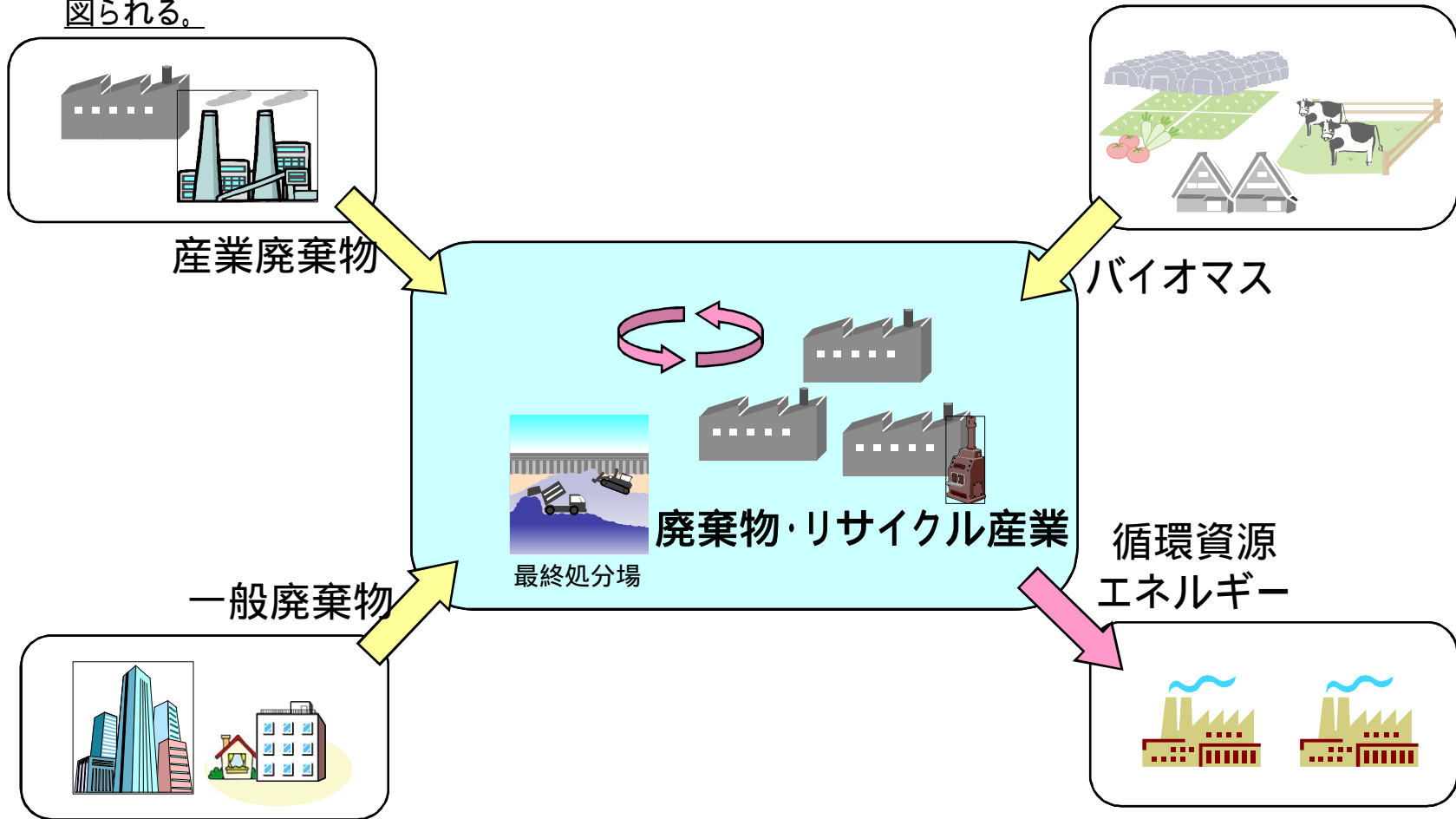
## 産業都市（非鉄金属処理技術）

- 動脈産業の技術・インフラ・ノウハウ等、既存の技術を応用し、循環資源の効率的活用に活かす。
- 量的には小さくとも付加価値の高い循環資源を回収するなど、独自の技術で循環型社会の構築に貢献する。



## 産業都市（総合的廃棄物処理）

- 一般廃棄物、産業廃棄物ともに幅広く受け入れる。特に産業廃棄物に関しては、処理施設が都市部と農村部の中間に位置ある場合、バイオマス系廃棄物・産業系廃棄物ともに受け入れ、大規模な処理が行われる。
- 再資源化された循環資源や回収されたエネルギーは再び産業活動等に活かされ、最終処分の最小化が図られる。

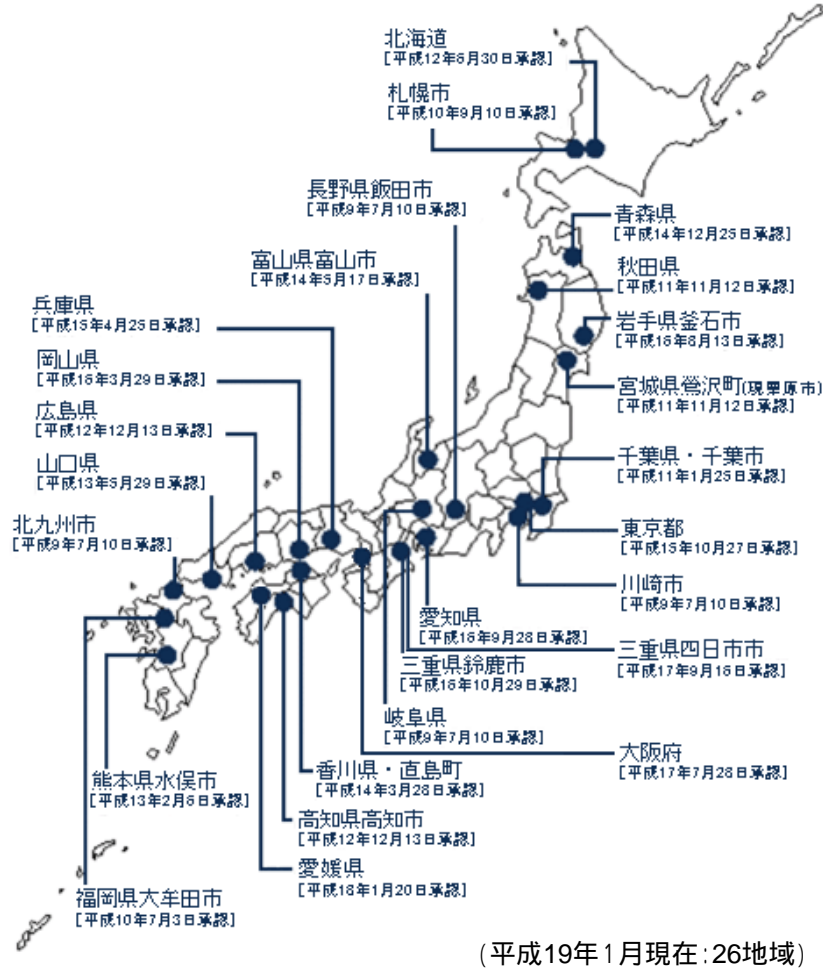




## 産業都市（産業都市間の連携）

- ▶ 現在、環境産業集積都市として26のエコタウンが存在している。今後は、各エコタウンの持つ処理技術を活かし、相互補完的に有効利用していくことで循環資源のさらなる効率的な活用が実現する。

### エコタウン事業の承認地域マップ



### エコタウン間での連携

一部でエコタウン間の連携が行われている例がある。

